

「古事記をよむ―大国主神の試練」

群馬県立女子大学名誉教授 北川 和 秀

◎古事記本文

是に、八上比売、八十神に答へて言ひしく、「吾は、汝等の言を聞かじ。大穴牟遲神に嫁はむ」といひき。故爾くして、八十神、怒りて大穴牟遲神を殺さむと欲ひ、共に議りて、伯岐国の手間の山本に至りて云はく、「赤き猪、此の山に在り。故、われ、共に追ひ下らば、汝、待ち取れ。若し待ち取らずは、必ず汝を殺さむ」と、云ひて、火を以て猪に似たる大きな石を焼きて、転ばし落しき。爾くして、追ひ下り、取る時に、即ち其の石に焼き著けらえて死にき。爾くして、其の御祖の命、哭き患へて、天に参る上り神産巢日之命に請しし時に、乃ち蛭貝比売と蛤貝比売とを遣して、作り活けしめき。爾くして、蛭貝比売きさげ集めて、蛤貝比売待ち承けて、母の乳汁を塗りしかば、麗しき壯夫と成りて、出で遊び行きき。

是に、八十神見て、且、欺きて山に率て入りて、大きな樹を切り伏せ、矢を茹めて其の木に打ち立て、其の中に入らしめて、即ち其の氷目矢を打ち離ちて、拷ち殺しき。爾くして、亦、其の御祖の命、哭きつつ求めしかば、見ること得て、即ち其の木を析きて取り出だして活け、其の子に告げて言はく、「汝は、此間に有らば、遂に八十神の滅す所と為らむ」といひて、乃ち木国の大屋毗古神の御所に違へ遣りき。爾くして、八十神見め追ひ臻りて、矢刺して乞ふ時に、木の俣より漏け逃して云ひしく、「須佐能男命の坐せる根堅州国に参る向ふべし。必ず其の大神、議らむ」といひき。

故、詔命の随に、須佐之男命の御所に参る到りしかば、其の女須勢理毗売出でて見て、目合為て、相婚ひき。還り入りて、其の父に白して言ひしく、「甚麗しき神、来たり」といひき。爾くして、其の大神、出でて見て告らししく、「此は、葦原色許男命と謂ふぞ」とのらして、即ち喚し入れて、其の蛇の室に寝ねしめき。是に、其の妻須勢理毗売命、蛇のひれを以て其の夫に授けて云ひしく、「其の蛇咋はむとせば、此のひれを以て三たび挙りて打ち撥へ」といひき。故、教の如くせしかば、蛇、自ら静まりき。故、平らけく寝ねて出でき。亦、来し日の夜は、呉公と蜂との室に入れき。亦、呉公と蜂とのひれを授けて教ふるごと、先の如し。故、平らけく出でき。

亦、鳴鏑を大きな野の中に射入れて、其の矢を採らしめき。故、其の野に入りし時に、即ち火を以て其の野を廻り焼きき。是に、出でむ所を知らずありし間に、鼠、来て云ひしく、「内はほらほら、外はすぶすぶ」と、如此言ひき。故、其処を踏みしかば、落ちて隠

り入りし間に、火は焼え過ぎにき。爾くして、其の鼠、其の鳴鏑を咋ひ持ちて出で来て、奉りき。其の矢の羽は、其の鼠の子等、皆喫へり。

是に、其の妻須世理毗売は、喪の具を持ちて哭き来るに、其の父の大神は、已に死に訖りぬと思ひて、其の野に出で立ちき。爾くして、其の矢を持ちて奉りし時に、家に率て入りて、八田間の大室に喚し入れて、其の頭の虱を取らしめき。故爾くして、其の頭を見れば、呉公、多た在り。是に、其の妻、むくの木の実と赤き土を取りて、其の夫に授けき。故、其の木の実を咋ひ破り赤き土を含み、唾き出ししかば、其の大神、呉公を咋ひ破り唾き出すと以為ひて、心に愛しと思ひて、寝ねき。爾くして、其の神の髪を握り、其の室に椽ごとに結び著けて、五百引の石を其の室の戸に取り塞ぎ、其の妻須世理毗売を負ひて、即ち其の大神の生大刀と生弓矢と、其の天の沼琴とを取り持ちて、逃げ出でし時に、其の天の沼琴、樹に払れて、地、動み鳴りき。故、其の寝ねたる大神、聞き驚きて、其の室を引き止しき。然れども、椽に結へる髪を解く間に、遠く逃げき。

故爾くして、黄泉ひら坂に追ひ至りて、遙かに望みて、呼びて大穴牟遲神に謂ひて曰ひしく、「其の、汝が持てる生大刀・生弓矢以て、汝が庶兄弟をば坂の御尾に追ひ伏せ、亦、河の瀬に追ひ撥ひて、おれ、大国主神と為り、亦、宇都志国玉神と為りて、其の我が女須世理毗売を適妻と為て、宇迦能山の山本にして、底津石根に宮柱ふとしり、高天原に氷椽たかしりて居れ。是の奴や」といひき。故、其の大刀・弓を持ちて、其の八十神を追ひ避けし時に、坂の御尾ごとに追ひ伏せ、河の瀬ごとに追ひ撥ひて、始めて国を作りき。

故、其の八上比売は、先の期の如くみとあたはしつ。故、其の八上比売は、率て来つれども、其の適妻須世理毗売を畏みて、其の生める子をば木の俣に刺し挟みて返りき。故、其の子を名づけて木俣神と云ふ。亦の名は、御井神と謂ふ。

【語注】

- 伯岐国の手間 和名類聚抄の伯耆国会見郡に天萬郷がある。現在の鳥取県西伯郡南部町。
- 御祖の命 母親。刺国若比売。
- 聖貝 赤貝。「きさぐ」は削り取ること。
- 蛤貝 はまぐり。
- 氷目矢 くさび状の道具。仕懸け。
- 木国 紀伊国。今の和歌山県。

○ひれ 女性の装身具で、肩に掛ける薄い布。



○むく 椋の木はニレ科の落葉高木。高さ二〇メートル、径一メートルに達する。果実は卵状球形で径一・二センチメートル。秋に紫黒色に熟し、食べられる。

○椽 屋根板を支え、屋根面を形成するために、棟から外周に斜めに架け渡した部材。

○宇迦能山うかのやま 出雲国風土記の出雲郡に宇賀郷がある。現在の出雲市奥宇賀町付近。

足名椎

楯名田比売

手名椎

天之冬衣神

八上比売

大穴牟遲神（大国主神）

刺国若比売

速須佐之男命

須世理毗売

